赤谷プロジェクト地域協議会/(公財)日本自然保護協会/林野庁関東森林管理局

# 2022.3.1

郎卜

総

AKAYA no MORI

二写真館

今回のテーマ

(雪残る小出俣山 撮影:赤谷森林ふれあい推進センター)



ニリンソウ(5月上旬)



キクザキイチゲ(5月上旬)



タチツボスミレ(5月下旬)



ヒメイチゲ(5月上旬)



キジムシロ(5月上旬)



の罠で捕まえるというものです。 めて舐めにきたシカを、 真1)を林内に置き、ミネラルを求 これは、家畜用の塩である鉱塩(写 シカの誘引捕獲試験を行っています。 2018年以降、くくり罠を使った から個体数管理を行うべく ロジェクトでは、シカが低密度の段階 被害が出ると予想されます。赤谷プ 代の妨げや土壌流出といった深刻な 下層植生の消失による森林の世代交 周辺の脆弱な植生が食害を受けてお 既に三国峠のニッコウキスゲや湿地 こで懸念されているのが、ニホンジ モニタリング調査を行っています。そ ら自動撮影カメラを用いた哺乳類の のほぼ全域を対象に、2008年か 赤谷プロジェクトでは、赤谷の森 (以下シカという) の増加です 放置すれば、農林業被害に加え 踏み抜き式

ス1頭 日稼働)、2019年にオス2頭、メ 2018年にオス1頭(4~6機13 2020年は0頭でしたが、 (13機41日稼働)を捕獲しま

確認されたため、あらためて稼働さ 2020年に中に入っていることが い状態で誘引を続けたところ りませんでした。しかし、稼働しな 力が警戒して中に入らず、捕獲に至 年に一度試みましたが、当時は、シ を閉じ込める罠のことで、2018 罠9機、箱罠2機20日稼働)に実施 は、餌に誘引されて中に入った動物 した結果、箱罠でメス1頭の捕獲 箱罠1機20日稼働)と10月(くくり 試験ですが、6月(くくり罠15機 (6月24日) に成功しました。箱罠と 2021年も引き続き行った捕獲

中に入っても作動していないことが 中の鉱塩を舐めている姿が自動撮影 分かりました。そこで、糸を通す位 カメラで撮影され(写真2)、シカが る仕組みを採用していました。しか 掛け糸に動物が触れると扉が落下す ところ、試験期間の終了間際になっ 置や張り具合を入念に調整し直した か種類があり、6月の時点では、什 て、ようやく捕獲することができま し、いざ稼働させると、糸を避けて た。一方、10月はこの教訓を活かし 箱罠の扉を落とす仕掛けはいくつ

鉱塩(家畜用の塩)

糸を避けて箱罠内の鉱塩を舐めるシカ

型発信器(写真4)を装着して放獣 おける重要な情報となります。そこ 特定できれば、今後の個体数管理に られており、その場所や移動経路が GPSで位置情報を取得できる首輪 で、6月に箱罠で捕獲した個体に、 は別の越冬地で生活していると考え シカにとって厳しい環境です。その間 ス、シカの行動把握調査も実施しま 作動することはありませんでした。 獲装置(写真3)を導入しましたが、 しました。調査は現在も継続中(最 こちらは期間中にシカが誘引されず した。積雪が多い冬季の赤谷の森は、

確実に作動するセンサー式の自動捕 また、2021年は捕獲試験に加

らも、そこが越冬地であると考えら く調査する必要があります。 る可能性もあり、引き続き、注意深 れますが、状況次第でさらに南下す がえます。以降、1月下旬現在まで な場所の境界で、鳥獣保護区を上手 す。ここは、鳥獣保護区と狩猟可能 方向へ移動したことが分かっていま 体が、直線距離で約7km先の南東 それまで赤谷の森に留まっていた個 日の本格的な降雪のタイミングで、 大きな移動はなく、積雪との関係か に利用して越冬している様子がうか

第、改めて森だよりで紹介したいと 今後の位置情報がさらに取得でき次 行動把握調査の詳細については、



シカに取り付けた GPS 首輪型発信器

彰伸

伊藤

# 地域と

# 繋がる

地域協議会

さやか

長壁 総一郎さん・早也花さん

そういちろう

おさかべ



### 自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を 教えてください。

2020年に関西からみなかみ町へ移住した長壁総一 郎·早也花と申します。Liccaというブランド名で天然 100%のアロマオイルをつくる仕事をしています。アロマ オイルの原料は、自伐型林業チームの一員として森の手入 れをおこなう際に出る間伐材などを使用しています。

### 赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教え てください。

以前、森のおもちゃの家で働いていた時に関係者の方か らお声がけいただきました。元々移住前から赤谷プロジェ

クトに関心があったため 地域協議会に加入させて いただきました。



現在、香りを使った教育(香育)活動で教育現場との関 わりを持たせて頂く機会があり、そこでも赤谷の森の資 源を活用できないかと考えています。香りには正解がな く、記憶と結びつきやすいと言われているので、町内の児 童たちが赤谷の森を題材に学習活動を行う際にも、より 自由で印象深い学びにつながるのではないでしょうか。 そのほか、当プロジェクトに関わる企業と香りを介したコ ラボレーションができれば面白いなと考えています。

## 赤谷プロジェクトへ一言!(何でもOK!)

少しずつ関わっていければと思いますので、どうぞよろ しくお願い致します。



▲天然100%アロマオイル「Licca」





▲蒸留風景

# イヌワシ 铜祭学習





みなかみ町 総合戦略課 地方創生室 企画政策係

小野

赤谷プロジェクトをテーマにした環境学習に取り組んでいる新治小学校の子どもたちを対 象に毎年行われていたイヌワシ観察学習会。今回から町内すべての小学生(5.6年生)に声 をかけ、赤谷プロジェクトのみなさんにご協力いただきながら実施することができました。 ユネスコエコパークの登録をきっかけに、町内の学校で取り組んでいた環境学習、地域学習 はさらに充実してきています。赤谷プロジェクトを知る子どもたちが増え、「イヌワシを実 際にみてみたい」という声がずいぶん聞かれるようになり、今般それが実現したものです。

当日は絶好のイヌワシ観察日和でしたが、なかなか姿を現さず、寒さもこたえ、今日は出 てこないのかとあきらめムード。そんな中ついにイヌワシが舞いはじめました。うれしさを 抑えながらイヌワシを驚かせないように気をつけて観察。子どもたちの誇りに満ちた表情が 印象的でした。

こうした「みなかみならでは」を多くの子どもたちに体験してもらえるよう、みなかみユ ネスコエコパークをまもり、いかし、ひろめる取組をこれからも進めていきたいと思います。





▲イヌワシ観察学習会の様子





# <sup>色々な活動をしているよ!</sup> 赤谷プロジェクトの活動

# トピックス



### 赤谷の森自然散策 (秋)

悪天候のため散策はできませんでしたが、関係する施設の見学をした後、猿ヶ京温泉にて民話の語りと紙芝居の実演を楽しみました。



### 3Dwalkerの実施

森林の材積を計測するために、移動式3Dレーザース キャナシステムを使って、自然林や人工林の3次元データの取得を行いました。



### 新治小学校5年生の森林環境学習

地元の小学校の総合的な学習の時間の一環として、小 出俣林道を使った自然観察による森林環境学習を行いました。



### 山岳科学フィールド実習

4大学と関東局、中部局による、山岳域について連携して取り組む協定の一環としての現地実習の受け入れを行いました。



三国山のシカ柵ネット下ろし

三国山のニッコウキスゲを、シカの食害から保護するために設置しているシカ柵の維持管理作業を行いました。



群馬県立農林大学校校外実習

県立農林大学校森林コース2年生の校外学習の受け入れを行い、赤谷プロジェクトの取り組みについて紹介しました。



12月赤谷の日「イヌワシの狩場試験地の見学」

赤谷の日のサポーター活動として、イヌワシの狩場創出 試験地の見学やフィールドスコープを使ったイヌワシの 観察を行いました。



自然環境モニタリング会議

各ワーキンググループの現状や、みなかみ町との連携、 赤谷プロジェクト20周年(2023年度)に向けた取り組 み等について話し合いました。



谷川岳インフォメーションセンターでのポスター展示

谷川岳インフォメーションセンター内に、赤谷プロジェクトの取り組みを紹介するポスターなどを展示したPRブースを設置しました。

# 赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域 づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、 国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するとい う、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に 広がる約1万 ha (10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤 谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は

赤谷森林ふれあい推進センター





### 赤谷プロジェクトサポーター募集! (たくさんの笑顔がまってます (^o^)/



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

### ■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会:萩原

赤谷プロジェクトについて詳しく知りたい方はこちらもご覧ください。

林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\_fc/

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※『森のおもちゃの家 | 内

理事 本多 結 メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp (公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4101

プロジェクト担当 **萩原 正朗** メールアドレス akaya@nacsj.or.jp この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

林野庁関東森林管理局 赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 佐藤 健司

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\_fc/index.html メールアドレス ks\_akaya\_postmaster@maff.go.jp